

学位論文内容の要旨

		要 旨
学位申請者	鳥山 純子 【ジェンダー学際研究専攻】	<p>本論文は、長期の民族誌的調査に基づき、現代エジプト・カイロ圏において「近代」を象徴する重要な場の一つと認識されている私立学校で教員として働く女性たちの生き方を記述し、イスラーム教徒社会の「今」に生きる女性たちの意識と行為主体性の在り方を析出するとともに、女性学校教員の日常実践の視座からエジプト国家の近代化の特質を捉えることを目的とする。さらに本論文は、カイロ圏に生きる女性たちの生き方に関わる記述をエジプト国家の個別問題群において文脈化して分析するだけではなく、ジェンダー研究における「イスラーム・イメージの誤用」に対する広範な理論的かつ批判的な検討を経て、中東地域におけるジェンダー研究に新たな視角を拓くことを目的とする。</p> <p>第1章で問題の所在と研究方法を詳述したのち、第2章では先行研究の批判的検討から、「抑圧の犠牲者」という中東女性のステレオタイプを超えて、女性自身による自己成型と主体性構築の交渉過程を個別の社会的場面において捕捉する必要と、フーコーの議論を援用しつつ、女性たちの実践を自己のテクノロジーとして総合的に論じる必要性を説く。第3章では、1952年革命から「1月25日革命」前夜に亘るエジプトの政治及び社会経済の変動を「近代性」構築の過程として描き、教育制度、学校教員という職種ならびに本論の調査対象を「近代性」の文脈に定位する。第4・5・6章では調査対象の初等・中等学校に勤務する女性教員のライフストーリーの詳述を基軸に、「シャクセイヤ」（文脈を操作する力）、「クバール」（能力と知識を備えた社会的自律性）、「ヘルワ」（美しさ）という現代エジプト・カイロ圏の女性の行動実践を支える3つの準拠を析出する。第7章では、その3つの準拠が、「自己の目的合理性」・「国家の発展」・「消費を享受する豊かさ」という3つの異なる近代性イデオロギーの異なる配分での混淆の結果として生み出されたものであることを示す。第8章では、3つの異なる近代性イデオロギーの混淆が女性の「生」の在り方の複数性、さらに女性の「生」の在り方相互の矛盾と反発を生み出すものの、自分自身が自己の存在方法に働きかけて自分自身を変えようとする自己のテクノロジーとしては相互に共鳴するものであることを確認する。そして、「イスラームのジェンダー秩序」という一枚岩の上に乗った議論ではなく、（イスラームも含めた）複数のイデオロギーの交渉の渦中において女性たちの「個」の「生」を捉えることが、今後の中東ジェンダー研究に求められる課題であることを主張する。</p>
論文題目	現代カイロで女性学校教員として生きること -日常実践からの中東ジェンダー論再考-	
審査委員	(主査) 教授 棚橋 訓	
	教授 三浦 徹	
	准教授 申 琪榮	
	教授 熊谷 圭知	
	桜美林大学人文学系 教授 鷹木 恵子	